

三原市民と市長の「みらいトーク」(第6回) 実施結果

令和3年3月26日

目的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日時 令和3年3月17日(水曜日) 16時から17時45分

場所 久井保健福祉センター第2研修室(久井町)

参加者 市内で農業を営まれている方(6名)、三原市長

- ・農作物のインターネット販売、ドローンを使った農薬散布など、デジタル技術を活用した農業を営まれている方の中から、市が選定。

内容 各テーマに関して市長が質問し、参加者から意見を聴取。

(※今回市長は参加者からの意見聴取に傾注)

1 農業へのデジタル技術の導入について

- ・ドローンによる農薬散布やトラクターの自動操舵技術は実用化済みで、RTK 基準局の設置により更に精度が向上する。
- ・今後は画像解析技術(AI カメラ)によりドローンで必要な箇所に自動的に肥料散布できるようになるだろう。
- ・スマート農業の導入が利益につながるかどうかは課題である。(現時点つながらないと思う)
- ・スマート農業の導入効果を高めるためにも”地権者視点”ではなく”耕作者視点”での面的な再構築を考えるべきではないか。
- ・個人的にできないこと(デジタル化、それに対応した機械化)に支援をして欲しい。
- ・ドローンの今後に関しては、航空法の遵守(目視運転が原則)とバッテリーの容量アップ(全固体電池を開発中)が課題である。
- ・センサーを色々つけて環境制御もやったこともあったが儲からない。その種の設備投資はしない方がよい。

2 農業で稼ぐために

(1) ネット販売

- ・ ネット販売の成否はブランディングにあると思う。ブランディングができる人がやるべき。
- ・ 商品を気に入れば東京の人は高い送料も払ってくれる。利益を固定化するため送料は割切って変えている。三原のお客は少ない。
- ・ ネット販売は東京の客が多く輸送費の面(送料込価格)で諦めた。特に米は重量物であり(輸送費が高く)遠隔地販売に向かない。
- ・ ネット販売をやっている人で本気でやっている人は少ないのではないか。
- ・ ネット販売の誘いはあるが手数料2～4万円/月で利益は出せないと思う。そもそもネット販売の出荷作業をする余裕が無い。

(2) 生産者と購入者のマッチング

- ・ 市が販路拡大のために経験のない者同士のマッチングに貢献できるのではないか。
- ・ 行政がシェフを連れてきて農家とのマッチングを行ってみてはどうか。
- ・ 地元法人連携で販売量をまとめることで販路は自然に広がっている。マッチングは十分取れている。

3 有害鳥獣対策

- ・ 山の手入れ(下刈り)をすれば鳥獣被害が減るのではないか。昔は木を切って薪にしていたが今は誰も山に入らず荒れている。
- ・ イノシシが多い。狩猟免許は持っているが自分では捕獲できない。若い元気な人に活躍して欲しい。
- ・ 電柵やメッシュの設置など個人による鳥獣害対策を行っているが、行政による鳥獣害対策お願いしたい。
- ・ 鳥獣害被害を未然に防ぐ三原市全体のビジョンを市民へ周知願いたい。

4 人材

- ・人材は現在足りていない。
- ・「農業をやりたい」でなく「〇〇を作りたい」という人は、農業は続かないと思う。
- ・農業をするには根性が必要。資金も必要。
- ・インターンシップ(短期職業体験)の受入は収支を悪化させる。
- ・研修ではなく就職して欲しい。

5 その他自由意見

- ・稼ぐ仕組みを色々な方から学びたいので、このような会を再度設けてもらいたい。
- ・羽和泉小学校をレストラン等へ活用することを検討したい。
- ・山が肥えて松が枯れている。松茸も無く山に入って稼ぐことが難しい。山で稼ぐ手段が必要。
- ・久井町に道の駅を設置して欲しい。三原市内で久井町だけ道の駅が無い。
- ・米作から園芸作への転換(機械投資)のハードルを下げるべきである。